

# 医療センターニュース

編集：三重県立総合医療センター広報紙編集委員会

<http://www.mie-gmc.jp/>

〒510-8561 四日市市大字日永5450-132 TEL (059) 345-2321 (代表)

E-mail: [sogohos@mie-gmc.jp](mailto:sogohos@mie-gmc.jp)

## 「生活習慣病・糖尿病教室」をお役立てください

当院では、住民の皆さんに、生活習慣病やメタボリック症候群等に起因する内科疾患の予防等に役立てていただくため、今年度から「生活習慣病・糖尿病教室」を開設しています。

教室は4月から毎月1回開催しており、6回で修了する講義内容となっています。

このたび、4月から9月までのすべての回に参加された皆さんに、当院の白木副院長から「修了証」をお渡しさせていただきました。

10月からも同様の内容で教室を開催し、初回は10月19日(水)の予定です。

内容も、生活習慣病・糖尿病の説明、食事療法・運動療法、合併症の予防法やストレッチ体操のほか、さらに充実を図ります。

どの回からでも参加していただくことができ、参加費は無料です。

ぜひ、皆さんも当教室にご参加いただき、ご自身の生活習慣の改善や疾病予防にお役立てください。

なお、詳しくは、当院地域連携課「かけはし」へお問い合わせください。



## 県立総合医療センターの基本理念・基本方針

### 基本理念

- 1 救命救急、高度、特殊医療等を提供することにより、県の医療水準の向上に貢献します。
- 2 安全・安心で互いにささえあう社会の実現に向けて医療面から貢献します。

### 基本方針

- 1 患者の皆様の権利を尊重し、信頼と満足の得られるチーム医療を提供します。
- 2 県の基幹病院として医療水準の向上に努めるとともに、医療人材の育成に貢献します。
- 3 県内医療機関との連携を強化し、地域医療の充実に努めます。
- 4 職場環境を改善し、職員のモチベーションの向上に努めます。
- 5 責任と権限を明確にした自律的・自主的な経営を行います。

## もくじ

「生活習慣病・糖尿病教室」をお役立てください……………1	平成27年度業務実績に関する評価結果について……………3
病院の機能分化(役割分担)にご理解をお願いします……………2	外来患者アンケートを実施します……………3
持参薬の管理にご協力ください……………2	当院の協力病院(連携医療機関)紹介 医療法人徳洲会 四日市徳洲会病院 ……………4

# 病院の機能分化(役割分担)にご理解をお願いします。

病院には、大学病院や当院をはじめとした総合病院、診療所(〇〇医院、〇〇クリニックなど)まで、さまざまな名称や規模のものがありますが、総合病院と診療所は、日頃から機能分化(役割分担)を行っています。

診療所は、地域住民の「かかりつけ医」として初期診療を担っています。

一方、総合病院は、救急患者の受け入れや、診療所等から紹介を受けた高度な医療の提供が必要な患者さんに対する診療を行うとともに、総合病院での治療を終えられた患者さんを「かかりつけ医」へ戻す(逆紹介)など、「かかりつけ医」との連携を図っています。

## 何でも相談できる「かかりつけ医」を持ちましょう!

「かかりつけ医」とは、風邪などの日常的な病気の治療や健康管理などを行ってくれる身近なお医者さんのことです。

普段から「かかりつけ医」を決めて、ご自身やご家族の心身の状態を良く知っておいてもらうことで、

- 待ち時間が比較的短く、じっくりと診察してもらえる。
- あなたやご家族の身体状態や病歴、生活環境などから総合的に診断するとともに、食事面など、日常生活上の健康管理についても適切にアドバイスしてもらえる。
- 入院や精密検査などが必要になった場合に、適切な病院や専門医を紹介してもらえる。

などのメリットがあります。



特に、精密検査や高度な治療が必要になり、総合病院等を受診する際には、「かかりつけ医」の紹介状や診療情報を持って受診すれば、これまでの治療経過もわかるため、スムーズな治療や正確な診断につながります。

皆さんも、病院の機能分化について十分ご理解いただくとともに、日頃から、いざという時に何でも気軽に相談できる「かかりつけ医」を持っていたら、少しでも体調に異変を感じたら、早期に「かかりつけ医」を受診し、病気が重くならないように努めてください。

## 持参薬の管理にご協力ください

入院されるときには、普段使用している薬や薬の入った袋、お薬手帳を必ずお持ちください。

入院後の治療を適切に行うため、持参薬に関する正確な情報を把握する必要があります。

普段使用している薬であっても、手術や検査にあたり一時的に服用等を中止する必要があるものが多く存在します。また、入院後の治療に伴って処方される薬と持参薬との間に危険な相互作用(飲み合わせ)があるかどうかを確認する必要があります。ほかにも、同様の効能を有する薬の重複した処方を防ぐことにより、医療費の削減にもつながります。

安全に治療を受けていただくため、当院で処方した薬に限らず、他院で処方された薬についても確認させていただく必要がありますので、ご理解とご協力をお願いします。

●持参薬とは、患者さんが当院へ入院されるときに、持ち込まれる普段使用している薬(飲み薬や点眼薬、貼り薬、注射などのすべての薬)のことです。



## 平成27年度業務実績に関する評価結果について

当院は、平成24年度に地方独立行政法人となり、設立団体の長である三重県知事から示される中期目標（平成24年度～28年度）の内容に沿って中期計画及び年度計画を策定し、これらの計画に基づいて運営を行っています。

地方独立行政法人は、毎年、前年度の業務実績について、外部の専門家で構成される評価委員会の評価を受けることになっており、昨年度（27年度）の業務実績についても、評価委員会での議論を踏まえて評価結果報告書としてまとめられ、9月に知事に報告されました。

評価は、「全体として中期計画（平成24年度～28年度）の達成に向けて順調に進んでいる。」という内容で、特に、

- 地域の医療機関（かかりつけ医）との機能分化を推進するため、各部門が協力して紹介率（当院の患者数に占める地域の医療機関からの紹介患者の割合）の向上に向けた対策を行ったこと
- 地域の医療機関からの紹介患者数が大幅に増加したほか、退院に向けた支援を行った患者数も順調に推移しているなど、当院の相談体制の充実により、地域の医療機関や住民との信頼関係が深まってきたと考えられること
- 患者の多様なニーズに対し、診療機能の充実を図るため、診療体制（組織）の見直しを行い、5つの診療科（救急科、北勢呼吸器センター、消化器外科、乳腺外科、総合内科）を設置したこと

などの点で高い評価をいただいた一方で、待ち時間の短縮等により、さらなる患者満足度の向上に努めるよう要請がありました。

当院では、評価結果を踏まえ、患者満足度のさらなる向上に努めるとともに、今後も地域の医療機関の皆さんとの連携を強化し、救急医療や高度医療の提供を通じて、地域の皆さんから信頼される病院づくりに努めていきます。

※評価結果について詳しくは、当院ホームページ（下記URL）をご覧ください。

<http://www.mie-gmc.jp/html/houjin/hyouka.html>

### 外来患者アンケートを実施します

当院では、診察や検査、会計等にかかる待ち時間の改善や、プライバシーの確保に配慮した院内環境の整備、職員の対応など、当院が提供するサービスについて患者の皆さんの声をお聞きして、問題点の把握や改善を行い、さらなるサービスの向上を図るため、10月27日（木）、28日（金）の2日間にわたり、エントランスホール（1階）にて、外来患者アンケートを実施します。

お会計の待ち時間等に、職員がアンケート用紙への記入をお願いさせていただきますので、より良い病院づくりのためにご協力をお願いいたします。

なお、アンケート結果については、まとまり次第、本紙面上で概要をご報告させていただく予定です。



### 地域医療機関の先生方へ

### 救急外来への患者さんの紹介についてお願い

救急外来へご紹介いただく患者さんの状態は、一刻を争うことが多々あります。

正確な情報が必要となりますので、地域連携課を通さずに、**代表電話(059-345-2321)**を通して、救急外来担当医師と直接お話をさせていただきますようよろしくお願いいたします。

# 当院の協力病院(連携医療機関)紹介 第28回

医療法人徳洲会 四日市徳洲会病院 院長 豊田 國彦



## 診療科目

内科、リハビリテーション科

## 外来受付時間

9:00 12:00	月	火	水	木	金	土	日
	○	○	○	○	○	△	△

## 休診日

土曜日・日曜日・祝日・年末年始



## 所在地

〒510-0821  
四日市市久保田2-1-2  
TEL 059-355-2980



当院は、平成9年に四日市青洲クリニックとして開設、平成12年より医療法人三重愛心会 四日市青洲病院(療養病床30床)として開院しましたが、この度、平成28年8月に、医療法人徳洲会 四日市徳洲会病院と名称を変更し、内科外来及び医療療養病床30床、介護保険では通所リハビリテーション、医療機関併設の短期入所生活介護事業所(ショートステイ)、居宅介護支援事業を行っています。

医療療養病床においては、県立総合医療センターをはじめ市内及び近隣の急性期病院からの転院の方がほとんどですが、最近ではロングショートなど介護施設から医療依存度の高い高齢者の入院、在宅においてはサービスを多く利用しても介護者の様々な事情で在宅介護の継続が難しくなり、一時的なレスパイトで対応困難となり入院のケースも増えています。当院ではCTやMRIといった画像診断の設備がないため、近隣の病院に検査を依頼させていただいていますが、入院患者さんの多くは長期の入院中に誤嚥性肺炎や尿路感染を繰り返したり、癌や他の疾患を発症、併発したりしていることもあるのでレントゲン検査や超音波検査及び定期的な血液検査をもとに、治療を行っています。

療養においては治療の一環として栄養評価を行い、病状・栄養状態・摂食機能及び食事形態など栄養管理計画に基づいた栄養管理を実施し、経腸栄養では似たような製品でも、含まれる栄養素や供給源の特徴にあわせ、数種類の栄養剤を組み合わせたり、ミネラル分の多い塩(鹿児島与論島の命泉の塩)を使用しています。また当院では、栄養と同様に褥瘡対策と口腔ケアについて力を入れています。褥瘡については、栄養面での充実・入浴回数週3回以上、入浴しない日は足浴での血流改善、体位交換や徐圧の徹底を看護・介護で取り組み、創部の状態に合わせた材料及び治療薬で適切な処置を評価とともにきめ細かく行うことで、100%治癒を目指しています。口腔ケアについては、歯科衛生士を中心に口腔内全体のブラッシングやマッサージを実施し、口腔内を清掃し清潔にする事で、誤嚥性肺炎や感染症などの防止だけでなく、口腔機能の改善や回復・向上などにリハビリテーションとして重要な役割と位置づけています。当院では歯科衛生士が入院患者さんだけでなく、通所リハビリテーションやショートステイ利用者さんにもお1人ずつ口腔機能の評価とケアを行っています。利用者さんと共に嚥下体操や発声練習なども積極的に行っており、経口摂取ができなかった方が摂取可能となられた例もいくつかあります。

このように当院は、小規模の療養病院だからこそできることを、徳洲会の理念に基づき実施しています。残念ながら当院は365日、24時間オープンではありませんが、患者さんお一人ずつのこれまでの生活歴やご家族の思いを聞き、状態に合わせた患者さんに優しい長期療養のケアを今後とも続けていきたいと考えております。